

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体				
美原区読書習慣形成事業			美原区役所企画総務課				
事業目的	事業効果	活動指標	H30	R1	R2		
子どもの読書習慣の形成に向け、子どもが本に触れる機会を増やすことで、区域の読書環境を整備する。	<p>子どもたちが少しの時間でも本を手にとることのできる場(美原まちなか文庫)を身近に設けることで、本を読むことの楽しさを知り、ひいては読書習慣が身につくことが期待できる。</p> <p>また、その目的を理解して、家庭にある本を提供してもらうことで改めて読書の大切さが区内に広く浸透することが期待できる。</p>	収集した本の数	2,240冊	1,323冊	1,613冊		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	美原区教育・健全育成会議の提言に基づいてスタートした事業である。	◎	市民から寄贈してもらった本を文庫に配架するため、市民の協力がなければ運営できない。また、本の回収においては自治会や地域の関係団体の協力を得ている。	◎	書店がない美原区において美原まちなか文庫は子どもが本に触れられる身近な場所として区内外から注目されている。令和2年10月に新たに美原余部郵便局に設置した際には、新聞に紹介記事が掲載された。	○	各設置場所に置いてある本を、半年に1回ずつ、順番に別の設置場所にまとめて移動させていくことで、効率よく本の入れ替えを行っている。
⑤自立発展性		総合評価					
△	美原まちなか文庫は区内8か所に設置しており、回収ボックスは美原区内の地域会館32か所にも設置しているため、地域の協力を得ながら、行政が中心となって全体を取りまとめる必要がある。	◎	市民からの本の寄贈により運営する美原まちなか文庫は開始してから4年目となったが、令和2年度も約1,600冊の本が集まり、累計冊数は7,500冊を超えた。美原まちなか文庫を増やしていくことは区内の子どもが身近に本に触れられる機会を多く提供できることになる。今年度は美原余部郵便局、美原さつき野郵便局にも新たに設置することができたので、全小学校区に設置することができた。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	設置場所が増え、全小学校区に設置することができたが、これからも事業を継続するためには、定期的に別の本に入れ換えたり、劣化・紛失した本を補充したりして、子どもが利用したいと思う環境が必要である。そのためにも、本の蔵書数を増やすことが必要不可欠であり、市民に対して引き続き、本の寄贈を呼び掛けるとともに、子どもたちに美原まちなか文庫を利用してもらえるように周知していく。						